

想像してみても・・・

2022・4・7 校長 重枝一郎

昨年度、校舎内のWi-Fi環境を整備し、今年度は全生徒にタブレットを持たせるようにしました。このICT活用で、みなさんの学び方が変わっていきます。タブレットを授業や課外活動、家庭学習など、学校生活のあらゆる場面で活用することになります。今年度は、そのスタートの年と位置付けています。

今号は、これからのみなさんを想像して、少し書いてみます。

生徒同士で議論し、思考を深めるためには、基礎学力は欠かせません。しかし、授業の中で知識の定着をし、議論などの協働学習まで行うのは時間的に限界があります。

そこで、タブレットを活用した家庭学習で基礎学力の定着を促し、授業では学校でしかできない協働学習を行い、授業と家庭学習の相乗効果をねらうことになります。家庭学習では、学習動画とWebドリルを組み合わせ、みなさんが自分のペースで学習できるようにするとともに、学習時間をタブレットに記録させることで、自己管理能力の育成と家庭学習の質の向上を目指しています。

教室で、タブレットのグループ機能による教え合いをしています。また、一人で家庭学習するとき、わからないことをこの機能で質問すれば、同級生の誰かが答えてくれています。

先生たちの指導にも変化を生んでいます。先生たちは、みんながさっぱりわからない難易度が高い質問の対応やつまづきが大きい生徒の支援に多くの時間をかけられるようになっています。

学び直しも、動画やWebでの復習テストで、個々人で取り組んでいます。

家庭での情報伝達と共有が、確実かつ効率的になっています。配付物はもちろん、アンケートでも、とった後の集計結果やそれをグラフ化したものを、すぐに見ています。進路希望調査とテストの成績なども蓄積できて、担任の先生との面談などにも活用されています。体育では、自分の動きをパートナーに撮ってもらい振り返っています。部活動でもチームの動きを動画でプロジェクターに映し、ミーティングで確認しています。

タブレットは、学校と家庭の間でも、学校生活でも、つながり学習の大きな役割を担うようになっています。

こんな感じかな。ただ、ICTを使うこと自体を目的にしてはならないのです。最も大切なのはみなさんの力を伸ばすことであり、そのツールとしてICTを使うという考え方が大切です。これから、ICTは学校文化に根付いていくと思います。君たちの人間力・学力が本当に向上しているのかをしっかりと確かめながら、あわてず進めていけたらと思います。